

MIC

情報通信 vol.20

(2008年4月発行)

MOODY
INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・
サーティフィケーション株式会社
大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

CONTENTS

- 1 顧客実績 5000件突破
- 2 特集 (特別記事)
- 3 「プロセスの妥当性確認について」
- 4 MICニュース
新JIS認証開始
世界の認証件数調査が発表
ダボス会議閉幕
Q&A
- 5 審査の現場から
お客様紹介
(有限会社魚竹蒲鉾店)
連載よみもの
「審査員の心理」
- 6 連載よみもの
MICリレーエッセイ
「負け組の奇跡(?)」
(審査員 村上 明)
環境よみもの
「環境とISO14001」
- 7 お客様からのお便り
「ISO27001取得について」
(パブ日立ソフト株式会社)
「りんごを通して地域・地球に貢献」
(株式会社青研)
- 8 研修コースのご案内
ちょっといっぷく
コースのご紹介 受講生からのお便り

顧客実績5000件突破

オペレーションマネージャー 古沢 幹子

十二支最初の子年が明け3ヶ月が過ぎ新年度がスタートしました。4月は新学期、新入社員の月です。この時期になると初めて社会に出た頃の自分を思い出し、あの頃のやる気と前向きさは忘れずにいよいよ初心に戻ります。

弊社も社会に出て間もない時期がありました。当初顧客管理などの業務は全て手作業で行っていましたが、顧客が順調に増えるようになりデータベースが必要になってきました。データベースを作成するにあたって様々な情報入力を検討しますが、まずは顧客番号の

桁数を決めなければいけません。その時私はなぜか「1万件だと最低5桁は必要だな」と思い5桁に決めたことを覚えています。なぜ1万件だったのか定かではありませんが、希望と確信のようなものがあつた気がします。あれから7年、実は昨年末に契約件数が当初考えていた半分の5000件に達しました。単独審査が統合審査になったり残念ながら認証を継続されなかったりしたお客様もありますので実際の認証数はそれより若干少ないですが、5000件のご契約を頂いたということはそれだけ我々お客様に信頼して頂いたという証ですし、認証数は業界ではトップクラスを誇ります。当初の「1万件」は漠然としたもので、いつになるのだろうという気持ちも正直ありました。しかし、その数の半分をすでにクリアしました。お客様の声を聞き、同じ目線で話をし、お客様のための審査を心がけたことがその成果につながったのだと思います。

今年は十二支最初の年です。スタッフ一同また気持ちを新たにし、初心を忘れず皆様に信頼して頂ける審査機関であり続けるための努力を怠らず続けていくつもりです。また同時に皆様からのご意見もどんどん吸収し「何でも気軽に話せるビジネスパートナーとしての審査機関」でありたいと思います。



プロセスの妥当性確認



今回は ISO9001:2000の要求事項にあるプロセスの妥当性確認を取り上げます。業種によっては理解が難しいと考えられている方もいらっしゃるかもしれませんが、事例を通して理解を深めて頂ければと思います。

MIC Loyalty 部 部長

成毛 秀雄 Hideo Naruke

1 プロセスの妥当性確認とは

ISO 9001 7.5.2 では、製品及びサービス提供の過程で結果として生じるアウトプットが、それ以降の監視又は測定で検証することが不可能な場合には、組織は、その製造及びサービス提供の該当するプロセスの妥当性確認を行うこと。」と規定しています。プロセスの結果としてのプロダクト(製品)の特性、要求事項との適合性が検証できない場合について規定しています。本来、製品の特性、適合性は、規格 8.2.4で規定されている製品検査により製品自体において検証できるはずですが、ある特定のプロセスによるプロダクト(製品)は、それを検証することができません。

例えば、コンクリートというのは、ご承知の通り 土木、建築の主要な資材であり セメント 砂 砂利などの骨材、水、その他混和剤を混合したものです。これらの配合により 生コンクリートの流動性、また、固まったときの強度が異なってきます。そのため、コンクリート製造においては妥当で、正確な配合ということがきわめて重要なプロセスであり どのような配合でどのような性質、強度がもたらせるかをあらかじめ確認しておかなければなりません。固まったあとで強度が足りないといっても手遅れです。そのため、プロセスの妥当性確認という考え方が重要になってきます。

2 確認の方法

プロセスの妥当性確認は、1994版では特殊工程ともいわれ、コンクリート製造のほか、溶接作業などがよく例として挙げられます。以下、溶接作業の場合を例にとり検討してみましょう

ここでいう溶接は、エンジニアリングの世界で使われる溶接であり 大型プラント、大型機械、船舶などに使われるもので、複数の鋼材を完全に融合させ、一体となった溶接物として作られるものです。溶接物の製品要求事項は、接合部分(溶接部分)の強度、延性、脆性などの物理的性質、及び溶接部に発生しうる欠陥の程度として規定されます。完成した溶接物の物理的性質を検証するには、破壊試験が伴い、欠陥は非破壊試験により検証されます。

破壊試験により 溶接部に要求される特性と要求事項との適合性を検証することができますが、注文単品生産を行う溶接物の検証にこれを行えば製品として使用することができず、プロセスの終了後に製品の検証をすることができないということになります。このような場合に、製品の検証で要求事項の適合性をみるのではなく、要求事項を満たす製品が生産されるプロセスを計画し、その結果として目的の製品が生産されるプロセスを考え出すことにより 製品の検証の代わりに製品ではなく、プロセスの妥当性により製品の適合性を保証しようとする訳です。



3 プロセスパラメーターとは

あるプロセスにおいて、そのプロセスの条件を決定づける変動的な要素をプロセスパラメーターと呼びますが、溶接におけるプロセスパラメーターには、主として以下のようなものがあります。

< パラメーター >

- ・電流：例 12 A
- ・電圧：例 130 V
- ・溶接スピード：例 20cm/毎分

あらかじめこれらのパラメーターを設定し、このパラメーターによる溶接プロセスからもたらされる溶接部から試験片を採取し、要求される物理的性質が検証できる機械試験を行い、その物理的性質を記録していきます。パラメーターを変えて、その度ごとに試験データを取り、ある条件のパラメーターによる溶接で、一定の物理的性質を満たす溶接物をつくることができることを確認することができます。溶接の要求事項を検討し、すでに蓄積されているデータと比較することにより、それに見合う溶接プロセスを知ることができます。ここで、ある特定の溶接プロセスのパラメーターが確立し、その他の要求事項と合わせ、その溶接プロセスが確立されます。

溶接プロセスの結果としての溶接の出来映えはそれを行う溶接士の技量に負うことが多く、プロセスの結果としての溶接物の要求事項への適合性に大きく影響します。そこで、その溶接士の技量を予め認定するために、指定された溶接プロセスに基づき、溶接作業を行い、完成された溶接物に対し、破壊試験、非破壊試験を行い、技量を評価します。

実際に作業に適用する溶接プロセスが確定したならば、そのプロセスにより、技量を認定された溶接士

が溶接した溶接物は、要求事項を満たしたとみなし、それ以後は、その度ごとに破壊試験を行わなくても済みます。

4 どの業種にも広く当てはまる

このように、生産後の通常の検査では品質の検証が困難、あるいは不可能な場合には、その製造工程において、必要な設備や人員のスキル・能力などの条件を事前に設定・検証し、その通りに実施することで品質の保証を行うということです。製造・加工における溶接、熱処理、塗装などが一般的に該当するプロセスとして挙げられますが、サービス業など他の業種の場合にも該当します。

例えば、サービス業の場合、製造業とは異なり、製品（サービス）は検証前に提供されるため、事後に判明しても取り返しがつきません。そのため、事前に要員に対して必要な教育を行い、サービスの質を検証しておく必要があります。このように妥当性の確認は、広く他の業種にも当てはまることになります。

日本では、従来、品質管理手法であるTQCの中で、実施してきたことでもあり、そういう意味では特別なことではないと言えるでしょう。定められた条件に合ったものを確実に顧客に提供するために必要なものであると考えれば、より身近に理解して頂けるかと思います。





新 JIS 認証開始

MICでは、ISO マネジメントシステムのシステム認証を行っております。マネジメントシステム規格に基づき、申請組織を審査し、システムの有効性を評価するというのが業務の主たるものです。また、私たちのグループ会社であるムーディー・インターナショナル(MI)は、システムではなく、第三者、第三者の製品検査を行っており、ムーディーグループとして、システム審査と製品検査を行って来ております。この度、MICは、新JISマーク表示制度の登録認証機関として新たに製品認証の世界にも参入することになりました。

この制度はJIS(日本工業規格)に適合する様々な製品に「JISマーク」を表示することができる制度です。これにより、その製品がJIS規格に適合しているかどうか第三者に明確に表示することができます。MICでは、昨年末に経済産業省よりJIS A5308 レディー・ミストンクリーの登録認証機関として登録番号040701として登録されました。システム認証、製品検査、製品認証は、規格に準じて適合性を評価

するとする点では、似ている面もありますが、本質は異なります。システム認証とは、システムがシステム規格に適合し、効果的に運用されているかを評価し、認証要求事項を満たしている場合に認証します。製品検査は、製品の特性、機能が規定要求事項に適合しているかどうかを評価します。製品認証とは、製造プロセスが適切であるかどうかを検証し、そのプロセスの結果として実現した製品をサンプリングし、その製品の特性、品質の適合性を製品規格に基づき検証しようとするものです。このためには、製品試験は必須であり、認定を受けた試験所で製品試験が行われます。JIS製品認証は、国が定めた法律(工業標準化法)及び関係官庁の規定(省令)、JIS規格などに則った活動です。

MICでは、品質、環境、労働安全、情報セキュリティ、食品安全等のマネジメントシステムから更に製品認証の新しい分野へと業務を拡大しております。新JIS認証へのお問合せは、弊社東京営業部まで。

世界の認証件数調査が発表

ISO中央事務局は昨年12月、2006年末時点でのISOマネジメントシステムの主要規格の世界での認証件数について集計・調査した「The ISO Survey 2006」を公表しました。今回の調査では、これまでのISO9001:2000(品質)、ISO14001:2004(環境)、ISO/TS16949:2002(自動車産業)、ISO13485:2003(医療産業)に加え、ISO27001:2005(情報セキュリティ)が追加されています。調査によると、ISO9001の認証件数は897,866件で、前回同様

中国が第1位、次いでイタリア、日本の80,518件となっています。ISO14001は129,199件で、こちらも前回同様日本が第1位をキープしています。今回より調査に加わったISO27001は、認証総数5,797件で、2位のイギリスの8倍近くに当たる3,790件の日本が第1位となっています。この調査の詳細については、ISOのホームページでご覧頂けます(<http://www.iso.org/iso/survey2006.pdf>)。

ダボス会議閉幕

スイスの保養地ダボスに各国の政府首脳、企業トップ、学者らがさまざまな視点から世界情勢を話し合う世界経済フォーラムの年次総会(通称「ダボス会議」)が1月23日~27日に開催され、ブラウン英首相、ブレア前英首相、フィヨンム首相、ライス米国務長官、米マイクロソフトのビル・ゲイツ会長、日本から福田首相をはじめ数十カ国の首脳、経済界の要人を含め2500人以上が参加しました。

今年の共通テーマは「協調する変革の力」。地球温暖化による環

境問題の他、世界同時株安やサブプライム問題に端を発した世界経済の危機についての討議が活発に行われました。福田首相は特別講演の中で、7月の主要国首脳会議(洞爺湖サミット)の議長として、世界経済やアフリカ開発での国際協調、そして温室効果ガス国別総量目標など、ポスト京都議定書の国際的な枠組み作りへの提唱について訴えました。私たちが直面している国際社会共通の重要課題としてさらに今後の取組みが進んでいくものと思われます。

Q&A

Q

弊社は品質マネジメントシステムを取得して年が過ぎました。初回は外国人審査員の方に来て頂き、その後の維持審査、更新審査には、年配から若い方まで、延べ6~7人の審査員の方に審査して頂きました。いろいろな審査員の方に来て頂くのは構わないのですが、それぞれの審査員の方の考え方に温度差があるように感じることがあります。

Answer

MICでは、原則的に毎月、東西2箇所で開催し、MICの審査方針・考え方などについて、審査員に周知確認しています。会議では時には激しい議論になることもありますが、MICの考え方を通した付加価値のある審査の実践に向けて、毎回多くの審査員が取り組んでいます。審査員の専門性や主な経歴などにつきましては、顧客企

業の皆様には、ご契約後、弊社HRの「登録企業様向け」ページにてご確認頂けるようになっておりますので、受審前のご参考にして頂けると幸いです。

また、審査終了後には、担当審査員に対するアンケートを実施させて頂いており、審査の統一性、質の向上に役立てられるよう、頂いた情報を活用しております。

有限会社魚竹蒲鉾店 様

MIC審査員 美濃 英雄 Hideo Mino



有限会社魚竹蒲鉾店様は、2007年2月にISO 9001を認証取得されました。同社は、昭和28年、商店街の店舗からスタートし、5年前には新工場を設立、更に業務を展開されています。大手スーパーの要求に応えるためにも、また、安心・安全への投資も重要だという考えの下、ISO 9001の導入を決められました。「カンに頼る製造からISOシステムを通じた製造システム」を確立し、現在では、国内の主要最大手スーパーに多数出店されています。

製品の特徴は、冷凍すり身に生魚を30%ずつ混合してソフトな底味のある食感ということです。さらに副資材についても、各素材がもつ風味、食感、旨みを損なわないように、機械で刻まずに手作業によるカットが行われています。一昨年には、「生すり天」等で大日本水産会長賞、「きくらげ天」で農林水産大臣賞を受賞され、さらに、昨年、第60回全国蒲鉾品評会に出品の「梅焼」が、総出展数2000点の中から再度農林水産大臣賞を受賞されました。

工場外部には、「ISO 9001認証取得」の看板も設置され、更に品質向上に向け取り組まれておられると思っていた矢先、1回目の維持審査が近付いた頃、「ISO 9001の認証を取りやめたい」との連絡を受け、驚いて理由をお伺いしたところ、「ISOシステムの書類、記録作成が負担に



なり、多忙な業務の障害になる」とのことで、すぐに訪問させて頂きました。実際、「ISO 9001取得時、必要以上に決めたチェックリストなどの記録を職人さんに強要していた」状態が見て取れましたが、その後実施の維持審査でも「記録については、必要なものに限り、不要な記録は取らない」とをご理解頂き、認証継続が確定されました。

これからも「安全安心をモットーに、お客様に喜ばれる商品を提供し、社会貢献を果たす」という品質目標の推進に向け、水産練り業界No.1を目指して業務を展開されていかれることと思います。

<http://www.uotake.co.jp/>

連載読み物

審査員の

第6回

「資源の運用管理と製品実現」

MIC Loyalty部 部長 成毛 秀雄 Hideo Naruke

マネジメントレビュー、経営者の責任、内部監査など、審査を終えると、審査員は、いくぶん一息つけるといった感じがします。なぜなら、経営者とのインタビューを含むシステム全体像についての審査はある程度抽象的なこともあり、難しい面があるからです。この後、資源の運用管理から製品実現へと進みます。

資源の運用管理は、人的資源、インフラストラクチャー(物的資源)、作業環境が含まれますが、これらのことは、MICのチェックリストでは、製品実現と関連させています。製品実現は、業務のプロセスを主体とした管理であり、ISO 9000:2000(品質マネジメントシステム 基本及び用語)、2.4プロセスアプローチでは「インプットをアウトプットに変換するために資源を使用する一つの活動又は一連の活動は、プロセスとみなすことができる。」と記述されています。ある活動(仕事)を行うにあたり、その活動(仕事)のために必要な情報、材料を揃え、その活動の担当者が必要な機器、設備、道具を使用し、何らかの知的、

肉体的労働により「現にあるもの」を求められた「別の何か」に変えていこうとする努力といえるでしょう。このためには、仕事の手順、仕事をする人の力量、仕事をするのに必要なインフラストラクチャー、仕事をする環境が必要です。仕事は、効率よく進み、結果がよければなお結構ということです。

MICは、こうした業務の流れを重視したプロセス志向の審査について一定期間審査員教育を行ってきました。しかしながら、審査員、特に経験が少ない場合には、一生懸命になればなるほど、細かなところに入り込み、また、自分に専門性があるといふ過去の経験に照らし合わせ些細な事に深入りしてしまうことがあります。こうしたことは、システムということから離れ、ある特定の要求事項にこだわってしまうわけです。製品実現の要求事項は、業種によりその重要度に軽重があります。



MICリーエッセイ

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 秋田県秋田市
村上 明
(むらかみ あきら)



PROFILE

専門分野 ISO 9001 - 商業サービス・金融、その他のサービス (経営コンサルタント)
経歴 日理企業(株)、秋田企業活性化支援センター、(有)アイム (現職)

「負け組の奇跡(?)」

2006年、都市対抗野球大会で、これまで8度、都市対抗野球に出場して、0勝8敗「究極の負け組TDK」が、4対3で2年連続決勝進出の強豪「日産自動車」に勝利、優勝した。敗れた久保監督は「TDKには“野球の原点”を教えてもらった。野球をやれて嬉しいという感情が戦っているこちらまで伝わってきた。」

と最大級の賛辞を述べた。陽の当たらない秋田の負け組の快挙に雄叫びをあげていた秋田県民は、覚醒して翌年の国体で、天皇杯皇后杯ともに掌中におさめた。

しかし、これは偶然ではない。明確な戦略と目標の達成へのPDCAの運用が勝利を呼び込んだことが、後日検証されている。

ビジネスの世界でも、勝ち残るために私どもの関与した企業が、マネジメントシステムの効果的な運用を図り、秋田の負け組の奇跡的(?)な快挙のごとく、達成の喜びを味わっていただきたい。私自身も目標に向かって邁進し至誠通天、お手伝いを通じて快哉を叫びたいものです。

連載 環境とISO14001

第18回 「エネルギー問題(2)」

MIC環境審査員顧問 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

今回は各種エネルギー源のうち、化石燃料について述べましたが、今回は今話題のバイオ燃料について紹介します。

生物(主として生物体)を転換して得られるエネルギーをバイオマスエネルギーと言います。これらは燃焼して二酸化炭素を排出しますが、植物体自身が成長する過程で二酸化炭素を吸収するので差し引きゼロとみなされます。(これをカーボンニュートラルと言います。)また、何度も栽培できることから再生可能なエネルギーの一つでもあります。では、バイオマスエネルギー源としてどのようなものがあるのでしょうか。

(1)薪や炭として利用する森林資源

森林資源を燃やしてエネルギーを得ることは人類が地上に現れて以来の原始的な方法ですが今なお大きな潜在力を持っています。現在の荒地や未利用地の活用によってエネルギー不足に貢献できる可能性がまだまだ残っています。

(2)ディーゼル燃料油として取り出す栽培植物

樹液成分が石油に良く似ていて、成長速度が速いユーカリやアオサング、菜種、アブラヤシなどはディーゼル燃料を得る植物として利用されます。欧州で盛んに行われ、2020年までに輸送用燃料に占めるバイオディーゼルの割合を10%にする計画が

あります。日本では滋賀県のNPOによる「菜の花プロジェクト」が知られています。

(3)バイオアルコール燃料の原料としての栽培植物

近年、でんぷん・糖質作物から酵素反応によってバイオアルコールの製造が、石油の高騰を背景に急増しています。焼酎作りと同じ原理です。ブラジル、米国で盛んで、ガソリンに数%~数10%添加して使用します。日本では環境省の後押しで3%添加品が売り出されましたが、添加量を多くするとエンジン周りの部品を腐食すると言うことで、石油連盟はアルコールそのものではなく、これを化学物質と更に反応させたETBE(エチルターシャリーブチルエーテル)を7%添加したものを売り出しました。どちらが本命かわかりませんが、足並みの悪さを示しています。

バイオアルコールの最大の問題点は食料用穀物との競合であり、これまで食料用として栽培されていた穀物が燃料用に振り向けられ、様々な基礎食品の暴騰をもたらしました。更に、栽培用地の開拓のために森林が破壊される事態も起きています。これらの問題点に対して、非食品バイオマスからアルコールを作る技術が開発中であり、欧米で進んでいるバイオ燃料の品質

付表 バイオマス資源の一覧

資源の種類	資源の内容
森林資源	天然林、人工林
栽培植物(油脂植物)	ユーカリ、アオサング、アブラヤシ、菜種
栽培植物(糖質植物)	トウモロコシ、サトウキビ、キャッサバ
農林産廃棄物	わら、おがくず、樹皮
畜産廃棄物	家畜糞
都市ゴミ	紙屑、樹脂屑、廃食品

規格の調整の中で、農園開発に伴う森林破壊を規制しようとしています。

(4)直接燃焼用又はガス化燃焼用ガスの原料としての廃棄物

廃棄物の直接燃料化として生ゴミを含む一般廃棄物をチップ化した発電燃料(RDF)、プラスチックゴミや紙ゴミをチップ化した燃料(RPF)の製造、高温で蒸し焼き状態にしてガスを発生させるガス化炉、家畜の糞を嫌気性発酵してメタンを発生させること等が実用化されています。

バイオ燃料は潜在的なボリュームが大きい上に、生態系を損なわないことから重要なエネルギー源として積極的に開発拡大すべき資源です。そのためには強力な政策的な支援が必要と思われます。

今回はエネルギー問題第3弾として今後どのようなエネルギー供給システムが可能か検討してみることとします。



お客さまからのお便り



ISO27001認証取得について

バブ日立ソフト株式会社 (ISO 9001:2000 ISO 27001:2005認証登録)
事業支援部 稲田 英二

バブ日立ソフト株式会社は、新たな夢の実現を目指して「2世紀に飛躍するITソリューション・パートナー」です。お客様から、IT (情報技術) のことなら何でも気軽に相談していただけるソリューション・パートナーでありたいと願っており、情報化技術を持って、社会に貢献し、豊かな社会の実現を目指しています。得意分野としましては、受注から生産、購買、原価管理に至る製造業の基幹業務システムをコンポーネント化、イージョオーダー型の生産管理システムです。

最近のウイニーによる情報漏洩事故を代表として、不正アクセス、ウイルス被害等に関する事件・事故は後を絶たず、情報セキュリティ対策の必要性は一段と高まり、ソフト会社として顧客に信頼されるべく、早期にISO 27001を取得することになりました。昨年の7月に1次審査、8月に2次審査が行われ、無事認証取得することができました。約3年前にISO 9001を取得しているため、マネジメントレビュー、内部監査及び是正予防処置等の部分がそのまま流用できましたので、効率良く構築することができ、特に社内浸透がよりスムーズに行えました。

現在は、ISO 9001と同時期に維持 / 更新審査等を行えることを踏まえ、作業コストの軽減を図っており「統合マネジメントシステム」として運用改善に取り組んでいます。



りんごを通して地域・地球に貢献

株式会社青研 (ISO 9001:2000認証登録)
ISO担当 川村 静



株式会社青研は、青森県弘前市の岩木山の麓で生果りんごの販売とストレードルンゴジュースの製造・販売を行っている会社です。当社はジュースの製造・販売だけでなく、地域・地球に貢献するよう

様々な努力をしております。

原料は地元青森県産を主体として、外国産の濃縮果汁は一切使いません。化学的な味の調整をせず、無加水・無加糖・無香料の皮ごと丸搾りのストレードルンゴジュースを製造しております。199年より紙製容器「カートカン」のジュースを販売 (カートカンは地球温暖化防止のために森を育てる間伐材使用の奨励策として林野庁から認定証が交付されています) 2004年には青森県内に大きな被害をもたらした台風18号の落果りんごをジュースとして加工・販売した取り組みが、農産物を有効活用する姿勢として評価され、中学校教員向けの道徳指導教材で紹介されました。また、1988年に現在の加工センターを新設と同時に知的障害者の雇用を開始し、現在7名の従業員が

意欲的に、おいしいジュース作りに精を出して通勤しております。

ジュース部門のISO 9001取得を考えたのは、国内のみならず海外の顧客増加に伴い、組織運営の品質向上と国際競争力の向上の必要性を感じたためです。りんご農家を主体とした小さな企業ではありますが、初心・感謝・報恩を基本に据えて、「本物が認知される時代」の歩みを続けて参りたいと思っております。



カートカン





今回は、JIS について少しお話しします。JIS とは Japanese Industrial Standards (日本工業規格) の略称で、鉱工業品の品質・安全性・互換性等の確保を目的に、その種類、形状、寸法、構造、またその生産方法や使用法、試験・検査方法などに関して、工業標準化法に基づいて制定される国家規格です。JIS マークとは、鉱工業品の製造業者が、国の登録を受けた認証機関の認証を受けて、その製造する当該認証に係る鉱工業品又はその包装、容器若しくは送り状に当該鉱工業品が日本工業規格に適合するものであることを示す表示です。鉱工業製品の標準化により、私たちは異なるメーカーの製品でも組み合わせ使用でき、一定の品質の製品を手に入れることができます。例えば、電球や電池、カメラのフィルムなどは、メーカーに関係なく使用することができますし(互換性の確保)除湿機、衣類乾燥機など品質や性能が十分でなければ消費者は購入する意味がなくなるような製品もありますがこのような製品も品質が確保され、そして法律で着用が義務付けられているチャイルドシートやヘルメットなどの安全性が確保されます。このように標準化によって私たちは不便なく安全に製品を使用することができるのです。

JIS マーク表示制度は、工業標準化法の改正により2005年10月に変更されました。新JIS制度では、国による認定制度から国の登録を受けた第三者登録認証機関による認証制度へと変更となり、JIS マーク表示対象事業者もこれまでの国内外製造業者等に加え、販売業者、輸出入業者についても可能となりました。新JIS制度への移行期間は今年9月末で終了しますので、10月からは旧JISマークの表示は出来なくなります。

また、JIS は私たちの生活・ニーズの多様化にも対応しており、省エネルギーや3R (リデュース・リユース・リサイクル) など地球環境配慮を目的としたもの(環境JIS) 視覚障害者用誘導ブロックやシャンプー容器についての識別用のギザギザなど高齢者・障害者への配慮を目的としたものづくりに向けた標準化活動も推進されています。身近なJIS マークを一度チェックされてみてはいかがでしょうか(参考:日本工業標準調査会 HP)

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース 9001・14001・18001 (2日間)

【開催地】 東京・大阪

【対象者】 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定・検討しているシステムをより効果的に運用したい効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001 : RCA認定審査員研修コース (5日間)

- ISO14001 : RCA認定審査員研修コース (5日間)

【開催地】 東京

【対象者】 審査員の目で内部監査を行いたい内部監査グループのリーダーに任命された将来審査員を目指している

～ 受講生からのお便り ～

内部監査員コースを受講して

品質内部監査員コース(2006年10月)受講
石井産業株式会社 滋賀工場 技術品質管理課 小森 香苗

石井産業株式会社は、電子材料・物流資材・化粧品関連品の製造メーカーで、私はその滋賀工場技術品質管理課に勤務しております。新卒で入社した年に弊社で新規に立ち上げましたキャリアテープ製造部門でISO9001を取得するということになり、2006年10月にISO9001内部監査員2日間コースを受講させて頂きました。

ISOシステムの知識が乏しかった私でも分かり易く、受講生同士で行なった模擬内部監査は実際の監査時に非常に役に立ちました。講習は少人数制だったので質問などもしやすく、また受講者同士で意見交換をしたりして、リラックスして受講できました。

受講後まもなく実際に内部監査を行いました。講習で使用した資料等は周りの方にも参考にさせて頂き、色んな意味で受講してよかったと思いました。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2
日本橋Nビル 4F

TEL : (03) 3669-7408 FAX : (03) 3669-7410
E-mail : mi-certification@moodygroup.co.jp



大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原 41-14
住友生命新大阪北ビル 1F

TEL : (06) 6150-0571 FAX : (06) 6150-0575
E-mail : mic-osaka@moodygroup.co.jp